

第2回守山市総合計画審議会 議事録（要旨）

開催日時：令和6年11月26日(火)午後5時30分～午後7時40分

開催場所：守山市役所2階防災会議室

出席者：

（委員） 辻田素子、杉岡秀紀（WEB参加）、大崎裕士、上村瑠美、山本なお栄、石上僚、岩崎優希、北村妙子、小森慎也、佐子友彦、根木山恒平、桃谷香葉、村田和哉、山崎いずみ

（守山市等） 森中市長

総合政策部 木村部長、稲田次長、森口次長

総合政策部企画政策課 中島課長、田中参事、北條係長、大寄係長、荒川主任
株式会社地域未来研究所 田淵技術顧問、貞松主任研究員

1. 開会

2. 市長挨拶

3. 会長挨拶

4. 議題

（1）守山市の課題等の整理について（報告）

意見なし

（2）守山市の将来都市像について（意見交換）

会長	守山市の将来都市像について、「人」「くらし」「まち」「共通」の視点から、順番に意見をお伺いしたいと思います。 まずは「人」についての意見をお願いいたします。
佐子委員	守山のことを知らない人が守山で何か活動しようと思った場合に、どこに行けば情報が得られるのかわからない状況にあります。 ハブになるようなところがあり、コミュニティが可視化されていれば、様々なコミュニティが育っていくようなまちになるのではないかと思います。
石上委員	ここ数年、新たにマンションが建設されていませんが、それまではマンションの販売業者が、うまく守山のシティブランドをつくり上げて、それによって若い世代の転入が増加してきました。 人口が横ばいになり、これから増やしていくのかどうかというところにも通じると思いますが、自治会加入率の高さが自慢である反面、PTA加入者が少なく

	なっているという話もあります。
佐子委員	転入してきた際に、例えば、子育て世代なら子育てに関する情報を網羅したようなものが得られる場所。また農業を始めたいけどどこに相談したらいいのか分からないので、そういった時にどんな活動している人がどこにいるといった情報など、活動情報や場所などが分かりやすいように、そういう機関としてのハブがしっかりと整備されているまちになればいいと思います。
市長	守山市には、様々な活動をされている方がたくさんいますが、どういう方がどういう活動をしているかわかりづらいという声は、いろんなところでよく伺います。市としては、まちづくり活動団体を紹介したり、支援する中間支援組織という機能も当然あるのですが、市民交流センター「さんさん守山」にいるコーディネーターが活動団体をつないでいく取り組みを強化し、様々なニーズにあわせて相談できる存在になってほしいと考えています。 また、来年建て替えて完成する駅前の平和堂の2階の一角に子育て支援拠点の開設を予定しており、そこに行けば、子育て関係サークルの活動をはじめ、子育て関係の情報提供が得られ、子育て相談ができるような、まさにハブをつくる予定です。 どこまで対応できるかわかりませんが、市民活動や福祉、それぞれのジャンルでハブのようなところで情報提供していく観点が大事だと思いますので、しっかりと考えていきたいと思っています。
上村委員	最近ではPTA役員の成り手もなく、脱退したい人が多いという話も聞いています。また、地域の子ども神輿のお祭りなどを子ども会ではやらないと決め、有志で実行委員会を立ててやっているところもあるような状況で、子どものための団体が当たり前のようになくなってきています。 多分この崩壊は止められないのでは、守山でもPTAも子ども会もなくなるのではないかと危惧しています。
北村委員	守山小学校でもPTA活動は、基本「できる人ができることを」のスタンスで動いているところです。 実際には、子ども会との関係や日々の集団登校の見守り等も含め、複雑に取り組んでいます。 その現状も地区によって様々ですので、PTAのあり方については、学校としてもどうしていくとよいか、地域の方も含め、協議をしているところです。
村田委員	子どもは将来のまちづくりの最大の資産と言われますが、まさしくそうで、子どもの頃から地元への愛着、誇りを持つ、そういう人材を育てていくのが非常に重要だと思います。 教育の部分では、実際に子どもたちと関わらせていただく中で、子どもたちの主体性をいかに育てていくかが非常に重要であり、例えばこの農家さんみたいになりたいとか、こんな消防士になりたいとか、教育の現場で、子どもたちにそういう体験・経験をさせていけるかというのが非常に重要なことだと思います。

	まちづくりの発展のためには、受け身ではなく、文化、芸術など、既存の施設を活かして、主体的にやりたいことに触れていくことが大事だと思います。
桃谷委員	乳幼児、幼稚園児を対象にした託児室の活動をしており、子育ての情報が分かるものがあればありがたいと感じますので、来年開業する平和堂に併設の施設がそういうものになればよいと思います。 最近、子どもの体力が低下しており、せっかく自然豊かなまちですので、子どもが元気に外で遊べたらいいと思います。 大きな公園は整備されていますが、そこに行くのも車がないといけないので、子育て世代が散歩がてらに行ける身近な公園があれば、親子が集えます。 子育て中は、子どものペースにあわせて生活しているので、忙しく暮らしていると見逃してしまうような小さなところにも目を向けて、将来のまちづくりに盛り込んでいただければと思います。
山本委員	人口が増えることは良いと思いますが、各地域で高齢化や人口構成の格差があり、一つの学区内でも差異が生じています。 自治会からの意見でPTAがなくなり、地域の事業を有志やボランティアが担っているところもあります。 これからを支える子どもたちは宝物であり、私自身、子どもたちは「宝者」という造語をつくり地域で広めています、子どもたちに今後のための投資をするべきだと思います。 また、高齢化率が50%近いところでは、昼間、一人暮らしの高齢者が多くいるので、昼間の居場所が必要だと感じます。 サロンもありますが、週1回や月1回程度ですので、常に集える場があると、交流が生まれ、生きがいができ、また、見守り対策になると思います。 若い世代、高齢者世代、中間世代など分けて考えて、仕組みをつくれば、もう少し生活しやすくなるのではと思います。
山崎委員	みなさん高齢世代や子どもの話はしますが、私たち中間世代の話はあまり出てきません。 働いているから声掛けしないみたいな暗黙の雰囲気、よそ者感があり、なぜみんな中間世代に踏み込まないのだろうと感じています。 駅から離れた地区では、より高齢化が進んでおり、自治会の世代交代で、何をやめて、何を残すかという話が出ています。 地域のおじいちゃんおばあちゃんが子どもを見守ってくれる安心感とか、防災面とか、何かメリットがないと続かないと思うので、そういったものがちゃんと機能しているような自治会なりPTAの新たな形ができれば、面倒くささより安心感が勝るところが見せられればいいのではないかと思います。
市長	PTAや自治会も担い手が減っており、解散するケースがあるということで、やはり時代にあわせて変えていく必要があると思います。 道具やITなど頼れるものには頼りながら、見直して負担を軽減していき、もう

	少しみんながライトに関わることができるように、行政としても考えていかなければならないと思います。 体験の話は大事で、琵琶湖があり地球市民の森などがある中で、家庭によって体験格差が生じている状況で、体験したくてもできない子ども、体験したいと思える状況にない子どもにも、体験が身近になるように様々な選択肢を用意することも、行政としても大事だと思いました。
小森委員	市の施設のうち、最も大きい施設である市民ホールは、ハブ機能もあり、子どもが成功体験をできる場所でもあり、地域のコミュニケーションの場でもあり、市を活発にしていける場の一つだと思っています。 地域に寄り添える施設として、どう仕掛けていくかを考えながら活動しており、地域課題や様々な問題に文化会館としてどう寄り添えるかということを一生懸命考えています。 実際に最近始めた取組みとして、若い世代がこのホールを使って文化活動に積極的に関わっていけないかということで、文化会館が中高生の吹奏楽団をつくり、フラッグシップとして様々な取組みをしています。 次に考えているのは、障害を持った方が、コンサートを聞きに行くことは難しく、そういった方でも音楽や文化芸術に触れたいという声があるので、社会福祉協議会と協力しながら、検討を進めているところです。 そういった活動をしていくにあたっても、我々の施設だけでは限界があるので、様々な人と関わりつながることで、それぞれの得意分野で集結し、まちづくりに活かされていくと思います。
山崎委員	バスが不便ですので、人員不足問題もありますが、I T の力なども活用しながら、充実できるといいなと感じます。 今後、ますます高齢化が進む中で、自分の足で好きなところにいけないというのは、自己肯定感が下がります。 バスが充実すると子どもたちも親が送迎しなくてもすみますし、誰もが暮らしやすいまちにとって、バスは交通インフラの大切な基盤であると思います。 今後 10 年、ますます高齢化する中で、子どもを育てるという意味でも、バスに乗って行けるようになると非常にありがたいというのは市民として思うところです。
石上委員	滋賀県では、かつて南草津駅周辺に L R T を通す計画があったそうですが、守山市は琵琶湖大橋もあり、南北交通が非常に大事ですので、守山市こそ L R T を通せるといいなと思います。 また、守山市は駅周辺に建築物の高さ制限を設けたため、ここ数年ほど新築マンションが建設されず、人口の増加が横ばいになったところことは、やはり危機感があります。 守山市でも古いマンション等の空き部屋が増えています。 新しい高層マンションを建てなくても、リノベーションなど古い建物を上手に活

	かして、付加価値をつけていけば人は増えるのではないかと思いますので、空き店舗や住宅など古いものを活かして大切にする支援をしていただければと思います。 また、駅東口に村田製作所が来られるので、地域とどう連携していくかという工夫が必要だと思います。
大崎委員	守山市では、新たな転入者を受け入れる寛容さがあり、これまでも人口が増加してきました。 昭和 55 年に市民憲章を制定されましたが、市の中長期計画は、市民憲章の 5 つの柱で全てを網羅しています。 先ほどからお話のあった交通問題なども含めて各分野についてもこの 5 つに関連していますので、長期ビジョンにおいて、市民憲章のどこに当てはまるかが分かるようにまとめてもらえると、市職員も市民もわかりやすく、転入者が増え、また戻ってきたいと思えるまちを目指せるのではないかと思います。
市長	市民ホールの話がありましたが、これだけ独自に主体的に動くホールは、他の自治体でもなかなかないと思いますので、ぜひ、文化の香り高いまちに一緒に高めていけるように様々な取組みをやっていきたいと思います。 次に地域公共交通についてですが、今では、バス会社に赤字補填を行っても、お金の問題ではなくなり、乗務員が不足していることから今後も減便を避けられないような状況になっています。 こうした中、バス路線の今後を考えると、どこの路線を維持するのか。維持ができない地域はどうするのかを検討していくことが必要となっています。 玉津学区では助け合い送迎を行い、地域の助け合いで高齢者の日常の移動を支えています。 移動手段の確保は本当に大きな問題であるので、市全体で考え、公共交通で維持できるところは頑張りながらベストミックスを考えていかなければならないと思っています。 マンションの問題については、高さ制限をどうするかということについてはしっかりと議論すべきですが、同時に既存ストックの活用など、商業ベースに乗らないところを行政としてどうやって後押しすれば、マーケットに戻ってくるのかということも含めて、この 10 年で考えていかなければならないと思っています。 市民憲章は本当に良くできていて、まちの姿を網羅して定めているものであるもので、市民憲章に掲げたまちづくり、それができているのか、足りないところがあればそれを加えていけば良いと思います。
会長	「人」、「くらし」については、合わせて意見をいただきましたので、次に「まち」についてのご意見をお願いいたします。
上村委員	中学生の息子は、中学生の居場所がないと言っています。 公園に遊びに行くと、乳幼児の保護者から中学生が遊ぶと言われるため、みんなで遊びたいことがあってもできないので、仕方がないから部屋の中で SNS など

	オンラインで友達と繋がっているとっています。 まちづくりの一環で、中学生、小学生、幼稚園、保育園など世代ごとの安全な居場所を計画の中に入れていただいたら嬉しいです。
桃谷委員	歩道にひびが入っているところが多く、ベビーカーが押しづらいという話を聞きました。 シニアカーも増えてきているので、歩道のバリアフリーとして、どの世代にも優しいまちづくりを進めてもらえると良いです。
山本委員	せっかく野洲川と琵琶湖があるのに、今は、子どもたちが琵琶湖に触れる機会がないので、どの子どもにも、もっと水に親しめる機会をつくってほしいと思います。 持続可能ということについては、田園地帯と言われるにもかかわらず、後継者がいなくなってきて、放棄地も増えていますので、田畑を集約・大規模化して大型の機械を使えるようにしないと、田園都市が守れません。 また、災害発生時に備えて、避難行動要支援者への個別支援をいかにしていくかがどの自治会でも課題になっていると思います。 自治会によっては、自治会長が一年交代で当番制となっているところもありますので、少し行政主導でやっていただきたいと思います。
小森委員	「地域資源」についての提案です。 歴史、文化、自然において恵まれた環境が守山にはあります。 それぞれに特化した拠点施設・人材資源もあり、それぞれの分野で活動されていますが、連携が取れていません。 その連携がもっと取れると守山に一体感が増すのではないかと思います。 市全体の部活動みたいな輪が広がり、つながりができると、コミュニティができ、次世代育成・リーダー育成につながるのではないのでしょうか。 そういった大きな枠組みの中で連携ができると地域資源や人材を生かせ、活気あるまちになるのではないのでしょうか。
岩崎委員	守山市はエリアごとに個性がありますが、車がないと行動が成り立たないまちと言えます。 また、一方で脱炭素社会の実現を目指すとありますが、世帯ごとに家族の人数分の車があり、渋滞も発生しています。 すごく良いまちですが、将来、歳をとった時に、移動手段がないので、一生住めるかという、正直不安に感じます。 子育て世代も大事ですし、高齢者も大事ですが、新しい飲食店の出店も少なく、バス等の移動が不便で中間層の楽しみがありません。 ベッドタウンとして静けさを求める人だけのためのまちにするよりは、くらしとまちは一緒に考え、自動運転やライドシェアなど新たな技術もいち早く整えていただければと思っています。 新規就農も増えているので、あらゆる世代が住みやすいまちを考えていければと

	思います。
根木山委員	中学校時代に地域の素敵な大人に出会える環境がありません。 中学生の居場所がないという話がありますが、居たくなる場所があり、そこで地域の素敵な大人に出会えて、守山っていいまちだと思えるようなところが、各中学校区にあればいいと思います。 守山北高校で新しい学科の創設に関わっていますが、地元が大好きな子どもが、市内北部地域で農業や商業などを営まれている人々の将来の仲間になる流れになればいいと思っています。 また、北部においては、青年団の拠点が北部公民館にあるのは良いのですが、駅近くにもあればと思います。
杉岡委員	自治会やPTAなどの地縁団体の衰退の話がありましたが、全国のどのまちでも課題となっているものの、すぐに効く特効薬的な改善策というのは見当たらないので、守山市なりの解決策を模索するしかないだろうと思います。 人口問題については、ピークがどこになるかは別にして、日本全体で人口が減少してく中で、増やすというのではなく、人口が減っても人材を増やしていくという考え方が必要ではないかと思います。 また、行政が1から10まで支援できるわけではないので、地域や自治会単位等で、仲介支援を担う団体や個人をいかに守山で育めるかが大事で、既存の団体がそのまま続くのではなく、常に変化してあわせていくといった視点が必要かと思っています。 公共交通は難しい問題です。今日出ていない論点でいえば公共施設もおおよそ50年で限界を迎えるので、公共施設の活用と公共交通とセットで考えるといいのではないかと思います。 自動運転はまだまだ法律が追い付いてない状況で、滋賀県が提唱されている交通税も含めて、これからの公共交通を支えるための仕組みや仕掛けは国家的議論が必要ですので、それを含めて守山市でも議論を深める必要があると思います。 皆さんの議論の中でも特徴的でしたが、これまでの伝統や過去の延長線上に未来があるわけではなく、一人ひとりの個々がどう輝くかという視点で、くらしや生活を展望するというのを、総合計画で謳っていかなければならないのではないのでしょうか。 自治会にしても、今までは世帯を前提としていましたが、個人としてどう地域に関わっていくか。 また、本日の議論に出てこなかったキーワードとして、「遊び」があると思います。守山市とほぼ同じ人口規模の舞鶴市で、大人が本気で遊び尽くすための団体をつくり、商店街で借り物競争をしたり、市民公共ホールで子どもと一緒にかくれんぼをするなど、遊びから大人と子どもがつながる仕掛けをしています。 これまでの団体にはないようなアプローチで、新たな団体がどんどん繋がってくるようなそんなことが守山でも望まれているのではないのかなという気がしまし

	た。 企業誘致については、守山に住んでいないけれど毎日通勤してくる企業市民がどう地域に関わっていただけるか、こんな論点ももう少し深めないといけないのではと感じました。 最後に、総合計画に落とし込む時に大切になってくるのは、行政がああしましたではなく、市民が主役あるいは主語になる視点が重要だと思います。朝来市では、総合計画の指標に幸福度を掲げ、毎年図る仕組みを導入されています。その意味でも、市民がやってみようと思うことがどれだけできたか。それを計る指標が市民の幸福度だと思います。 皆さんの意見を聞いて、行政がきれいにまとめ上げるということだけではなくて。市民一人ひとりがこのまちに生まれてよかった、住んでよかった、一度出ても帰ってきたい、最後はこのまちで暮らしたい、最後を迎えたい、こんなことを何か指標にできるようといった、次の段階かもしれませんがそんな議論もできればと思います。
市長	若者の居場所の問題については、中高生がよく言っています。子どもたちの居場所は、屋内だけではないので、バスケとかスケボーとか様々な声があります。 子どもたちの外の居場所と中の居場所、子どもたちだけでなく高齢者やいろんな人、いろんな世代の居場所が大切ですので、考えていく必要があると思います。 また、琵琶湖、野洲川も含めた自然体験については、せっかく守山に住んでいるのに琵琶湖に入ることがない子どもが多いので、自然が豊かでバランスの取れた守山の良さを生かし、なんらかの形で琵琶湖や野洲川に触れる原体験や、環境学習の観点も含めて、教育委員会と連携しながら検討していければと思います。 公共施設のあり方については、市内の施設も建て替えの時期に来ており、市民ホールも改修の議論が進んでいるので、市民に開かれた、みんなが自由に使いやすく、集える場所にしたいと思います。市内9小学校4中学校のプールも軒並み改修時期にきていますので、温水プールを中間地点につくり集約し、空いている時間に市民に開放すると、これからの公共施設のあり方をしっかり考えていく必要があると思っています。 最後に、市民活動については、市民会館を利用する際に利用料を徴収していますが、まちのために活動している市民団体には活動していただきありがたいという視点で、基準を定めつつ公共施設を無料、もしくは減免で使っていただくということも考えてはいいのではと思います。 幸福度については、市民の皆さんや団体の皆さんが何かしたい時に、そこに障害があって、それが仮に地域とか行政とかで後押しをすることでしやすくなるとか、もしくは、ちょっとでも今より良くなるというようなことであれば、どうすれば実現できるように後押しできるかとか、そういったこともしっかり考えていく。 結局はそれが良いまちづくりにつながるのと思っています。

会長	最後に「共通」のところについて、「多様性社会」とか「グローバル化」といったあたりが議論として出てこなかったように思いますので、ご意見をお願いできればと思います。
山本委員	認知症の方が増えてきており、40代で診断を受ける方もおられます。 「チームオレンジ」という認知症に対応できるサロンを今年から始められたところがあり、市内にも5～6か所あります。 また、ひきこもりの方も増え、8050だけでなく7040も増えていますので、そういった方々に各地区の包括センターに相談しながら関わろうとしても、なかなかアウトリーチできない状況にあります。 長期ビジョンで描く10年後にそういった方たちはどうなるのかというのが心配でありますので、夢のある話と同時に、認知症やひきこもり等、地域・行政が連携して支えるまちづくり等も盛り込んでほしいと思います。
佐子委員	国の特区構想の守山市版のようなものが構築できればいいのではと思います。 テーマに沿って特区地域を設けることで、実証実験も取り組みやすいのではないかと思います
市長	確かに、市全体で一律で施策を打つのではなく、モデル自治会的なところで、特化して、施策を試験的に行い、結果が良ければ横展開するという仕組みができるといいのかと思います。
会長	活発なご意見ありがとうございました。 それでは以上で本日の議事は全て終了となります。議事の円滑な進行にご協力いただき誠にありがとうございました。

5. その他

- ・次回は2月上旬から中旬に開催とし、後日日程調整を行う。

6. 閉会